



# ま部

まちあそび部

体験することには価値がある。  
あそびを通じた人材育成。







わたしたちは、このまちに「まちあそび」という新たなタネをまいた。





2023

まちあそび部の取り組みが、「ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰(総務大臣表彰)」を受けました。 詳細は 11 ページに掲載

**よ会**  
まちあそび学会  
詳細は4・5ページに掲載

2022

まちあそび部の主な取り組み



2021

なぜ、「まちづくり」改め「まちあそび」なのか。



けいおう ぎじく  
慶応義塾大学特任准教授・テレビコメンテーター  
燕市役所まちあそび部コーディネーター  
わか しん ゆう じゅん  
若新 雄純 さん

「まちづくり」という言葉は平仮名で定着しています。これには理由があるそうです。【街】でも【町】でもない、目には見えない曖昧な概念である【まち】を、みんなで楽しく試行錯誤しながらつくっていく、ということなのだそう。【作る】でも【造る】でも【創る】でもない。ゴールの分からない曖昧な何かを、時には夢中になり、まちのみんなで共有する。残念なことが起きて、そこから何かを見つけ、何かを学ぶ。それが楽しくて、続けたい。つまり、「まちづくり」って「あそび」ってことになるんです。

2020

まちあそび部のルールは「法律を守る!」のみです。それ以外のルールはなく、普段のあそびのような「ゆるさ」から多くの取り組みが誕生しています。

- ① 燕三条エフエム放送 ラジオ番組「JK のひるやすみ」
- ② ゆるキャラバスケット選手権
- ③ まちあそびブレンドをつくってみた。
- ④ 大河津分水の利活用企画「ゆるゆるキャンプ」
- ⑤ 大河津分水 100周年スイーツ「河桜記 EPISODE100 ～ドシャッとパンナコッタ～」



高校生を対象とした新プロジェクト「燕市役所まちあそび部」がスタート

◀これまでの取り組みの詳細は、つばめ若者会議公式ウェブサイトをご覧ください。



2019



- 大河津分水通水 100 周年をテーマに新潟経営大学と連携事業を開始

2016  
2017  
2018



- 学生を対象としたプロジェクト「燕ジョイ活動部」がスタート
- 燕ジョイ活動部を中心に地域や企業との協働事業を実施

2013  
2014  
2015



- 「つばめ若者会議」発足
- 未来ビジョン「つばめの幸福論」を作成
- 全国の地域づくりに取り組む人たちの交流イベント「今宵サミット IN 燕」を開催

つばめ若者会議 10 年の歴史



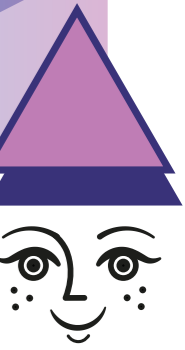
高校生が、まちの人と一緒に  
まちの資源をつかってあそぶ。

燕市独自のまちづくり手法、高校生による『燕市役所まちあそび部』。総務省が主催する令和4年度ふるさとづくり大賞において、地方自治体表彰を受けました。今号では、その活動をご紹介します。

若者による主体的なまちづくりを進める事業「つばめ若者会議」の高校生を対象としたプロジェクトです。大人と協力して、まちが持っている資源をつかった活動を行います。気になったこと、やってみたいこと、やってみないとわからないことに挑戦し、あそびを通じて、このまちの新しい発見をしていきます。



# 社会をすくすく 逸脱してみよう



2022.12.26

## よ会 まちあそび学会

まちあそび学会は、「社会を少し逸脱してみる」をテーマに大人を含む、参加者全員が「まちあそび」を体感し、高校生が活動で発見したことに共感する。そして、高校生から学びを得るイベントです。  
この日は、メンバーをはじめ、高校生や市内外のまちづくり団体、自治体関係者、教員など95人が参加しました。  
燕市の高校生がまちを使っ  
てあそび始めてから約2年  
半。活動を振り返り、そこから  
得られた学びを参加者同士で  
共有することが会のねらいで  
した。

まちあそび学会の動画は二次元コードからご覧いただけます▼



### 発見

- ワークショップ
- トークセッション

「あそびをふりかえる」をテーマにワークショップを行い、参加者それぞれが体験会で感じたことを付せんに書き出して意見交換をしました。  
その後、現役メンバー3人とOG 若新さん、慶應義塾大学SFC研究所上席所員の木村紀彦さんによるトークセッションを行い、それぞれが活動で感じたことなどをざっくばらんに語り合いました。



遊んでいるだけでは、何も残らない。結果が生まれられない。成果物の積み上げができないと考える人もいるかもしれません。  
しかし、まちあそび部は単に遊んでいるのではなく、活動の中で発見したことを学びに変えています。どうして楽しいのか、自分にとって何が楽しかったのかを振り返り、言葉や文字にするとそれが、まちに対する思い出や気づきとなります。

この発見が、まちが楽しいという愛着心、そして、まちに関わり続けたいと思う気持ちに繋がっていきます。

### 体感

- 体験ブース

まず、高校生が普段どのように取り組んでいるのか、参加者に体感してもらうために体験会を行いました。  
内容は、大人気ゲームのリアル版「ピシヤットカラーバトル」、オリジナルブレンドコーヒー「まちあそび部ブレンド」の試飲、現役JKから学ぶ「コスプレ＆TrickTokダンス」、メンバーが開発した「オリジナルボードゲーム」、燕三条エフエム放送のラジオ番組「JKのひるやすみ」特別編公開収録の5つです。  
参加者が各ブースを順番にまわりました。



◇ピシヤットカラーバトル



◇参加者全員でランチ会



◇オリジナルボードゲーム



◇まちあそび部ブレンド



◇「JKのひるやすみ」公開収録



◇コスプレ＆TrickTokダンス

### 学び

- 講演会

まちあそび学会全体の振り返りと合わせて、若新さんの講演会を行いました。

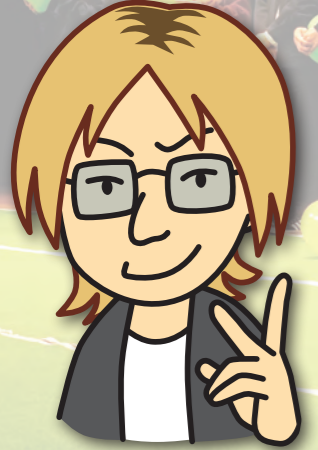
高校生がまちに与える力

「まち」は、そこに暮らす人々と切っても切れない関係です。  
つまり、すでに市内全ての高校生たちが、まちに何かしらの影響を与えています。「無関心」も影響の1つです。大切なのは、その一人ひとりの与えている大きささまざまな影響に目を向けてみることで、そして、それに気づくことだと思えます。そのためには、大人が変に「与える力」みたいなものに期待せず、決めつけず、高校生たちとまちの人がただ関わり合ってみれば良い

のではないのでしょうか。そうすれば、「すでに高校生がまちに与えている何か」、さらには、「まちが高校生に与えている何か」、にも気づくことができるかもしれません。

感覚を鍛える

まちあそび部では、高校生が大人と取り組む過程において、それぞれに何かしらの変化や感覚が生まれることを大切にしています。  
その生まれてくるものは、あそびから感覚的に溢れてくるもので、それを見逃さないようにすることが重要です。  
あそびを通じて得た発見を振り返ることが、「感覚を鍛える」ことにつながります。







### 距離感の大切さ。

燕市役所まちあそび部  
まつい ゆう  
松井 優 さん

◀まちあそび部で活動する松井さん。ゆるい雰囲気です。

まちあそび部に入って、スポーツ大会や国上山の竹を使った流しそつめんなど、いろいろな活動をしてきました。その中で私が一番印象に残っているのは、まちあそび学会の当日に担当した「まちあそび部ブレンド」のブースです。

一緒にブースを担当した大人たちが、高校生だけでなく来場者にも積極的に話しかけて、場の雰囲気づくりをしてくださいました。大人との関わりの中で、人の距離感の大切さに気づきました。この時は、今までで一番人と関わりを持った機会だったと思います。緊張しましたが、いろいろな人と話すことが本当に楽しかったです。



### 形にとらわれないこと。

燕市役所まちあそび部 OG  
エン  
燕ジョイ活動部  
あ  
みき  
阿部 美希 さん

私が参加していたときは、水鉄砲でサバイバルゲームをしたり、ゆるキャラと一緒にイベントをしたり、とにかくゆるいあそびを大人を巻き込みながら活動していました。今のメンバーの活動は当時と違って、いろいろなジャンルに取り組んでいると思います。メンバーが入れ替われば活動内容が変わるのは当然で、形にとらわれないところが重要ということをまちあそび部の活動で学びました。私は、現在燕ジョイ活動部のメンバーとして活動しています。学んだことを生かしながら、新しいことにこれからもチャレンジしていきたいです。



▲まちあそび部の1期生として活動した阿部さん。

## わたしたちの変化したこと。

燕市役所まちあそび部が、まちや地域の人、そしてメンバー自身に与えたことは何なのでしょう。活動している高校生と関わりをもち、一緒に活動していただいた人に聞きました。



### 思いついたら即行動。

吉田北まちづくり協議会事務局  
あべ あけみ  
阿部 明美 さん

◀「ゆるキャラバスケット」では、高校生と大人が全力であそびながら交流しました。

コロナ禍で協議会活動を休止していた中で、この先の展望が見えませんでした。その時、まちあそび部から声をかけてもらったのですが、直感で何か活動のヒントが得られるのではないかなと思いました。一緒に活動して感じたことは、「やってみないと正解はわからない」ということ。アイデアをすぐ形にしていくなちあそび部の姿をみて、大人が高校生に気づかされました。まちあそび部に倣って、方言戦隊メテオレンジャーなどの協議会活動は思いついたら即行動を意識して取り組んでいます。



### 番組制作の参考に。

燕三条エフエム放送株式会社  
あさひ しんや  
浅妻 真也 さん

◀ラジオ番組「JKのひるやすみ」では、高校生と一緒に番組企画・制作をしました。

ラジオ番組「JKのひるやすみ」は、聞いたことに答えてもらうといった形式的な番組ではなく、女子高生が喋りたいことを遠慮なくひたすら喋り続ける番組でした。通常の番組制作とは違った、ゆるい雰囲気の収録はとても楽しかったです。一緒に番組をつくってみて感じたことは、自然体でフレッシュなトークはリスナーだけでなく、一緒にいる大人にも元気を与えてくれるということ。いろいろなジャンルの番組がありますが、彼女たちの雰囲気を参考に番組づくりをしています。



### 高校生の視点を仕事に活用。

コーヒーガレージコンテンプラリー  
COFFEE GARAGE CONTEMPORARY  
さいとう とうま  
齊藤 桐麻 さん

◀オリジナルコーヒー「まちあそび部ブレンド」は2月から齊藤さんの店舗にて限定販売します。



まちあそび学会でのお披露目に向けて、オリジナルブレンドコーヒーの開発をお手伝いしました。このコーヒーは、豆の配合や味、香りのイメージなど全てまちあそび部の高校生が考えたものです。あそびとはいえ新しいことに真剣に取り組み、楽しみながら知識を深めていく姿に感心しました。この体験を私は、若いお客様に商品提案するときに活用しています。専門家目線だけでなく、開発時の高校生の反応や若者視点をお客様にお話しすることで、共感を得やすくなりました。自分にはない高校生の視点が参考になるので、このつながりを大切にしていきたいと思っています。



気負わない雰囲気で活動を。

まちあそび部に参加して、普段の学校生活では体験できない、いろいろな年代との関わりがあったいいなと思います。私は、縦の関係ではなくて、フレンドリーな関係の活動が面白いと思います。まちあそび学会でボードゲームをやったときも、老若男女問わず気負わないで関わることができました。

これからも、そんな関係をまちあそびでやりたいと思います。その方が、企画する私たちも参加する人たちも楽しいのではないかと思います。

燕市役所まちあそび部  
おたあみ  
大田 有美さん



作戦を練るのが楽しい。

この活動は、日常であまりできないことに挑戦できることが魅力です。決め事のある会議というより、あそび感覚で作戦を練るという感覚が楽しいです。普段の生活では、作戦を練るといって作業や感覚は基本的にないので、一から積み重ねて、新しい発見をしたり仲間と反省したりするまちあそびの過程が好きなんです。

今後は、まちあそび部フレンドの販売やコーヒー店の一日店長、作戦をしっかり練ったスポーツ大会をやりたいと思います。



燕市役所まちあそび部  
かなきゆう  
金泉 幸輝さん

# これからやりたいこと。

プロジェクトがスタートして2年半、いろいろな“まちあそび”をやってきました。メンバーにこれからやりたいこと、コーディネーターに今後の展望を聞きました。

楽しさや意義を言語化する。

今回のまちあそび学会で、これまで取り組まれてきた「まちあそび」の楽しさや意義を改めて実感することができました。特に重要だと感じるのは、振り返りをするところ、あそびのプロセスに潜んでいた学び・発見を言葉にし、みんなで面白がることです。

今後は、まちあそび部の楽しさや意義を魅力的でわかりやすく言語化し、発信できるようにすることで、もっとたくさんの方の高校生や大人を「まちあそび仲間」にできるといいなと思います。

燕市役所まちあそび部「コーディネーター」  
わかんしゅん  
若新 雄純さん  
きむらひこ  
木村 紀彦さん



まちが好きになるきっかけになればいい。

燕市役所まちあそび部は、地域の課題解決を目的とした「まちづくりの場」というより、あそびを通じた活動から学び、心がけられる「人材育成の場」として考えています。

実際、参加している高校生は、大人へと成長していく過程において、まちあそび部の活動で経験を積み、普段の学校生活では広げることができない『つながりの輪』をつくり、多くの学びを得ています。

また、自由な発想で、「大人の当たり前」から逸脱した、他愛もないことを受け入れることで、未来を担う若者が、まちを好きになってくれるのではないかと思います。これからも、若者の思いをしっかりと受け止め、ともに力を合わせながらまちあそびを全力でサポートしていきたいと考えています。



地域振興課 交流推進係  
ばんないみお  
主事 坂内 未央



令和4年度ふるさとづくり大賞表彰式

ふるさとづくり大賞を受賞しました。

燕市役所まちあそび部の取り組みが、総務省が主催する令和4年度ふるさとづくり大賞において、地方自治体表彰（総務大臣表彰）を受けました。つばめ若者会議事業が始まってから10周年を迎える2023年にうれしいお知らせとなりました。

●ふるさとづくり大賞とは  
全国各地で、「ふるさと」をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、ふるさとづくりへの情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的に、昭和58年度から実施されています。都道府県から推薦のあった団体、地方自治体および個人の中から、総務大臣が受賞者を決定します。

## まちあそび部メンバー募集中!

ま部ダチになって一緒に楽しもう!



**対象** 市内在住の高校生か市内高校に在学中の高校生

**内容** まちの資源を使った活動「まちあそび」を行い、まちの魅力を発掘します

■申込方法：メンバー申込フォーム（右の二次元コード）か下記よりお申込みください。

■申込先：地域振興課 交流推進係 ☎ 0256・77・8364 wakamono@city.tsubame.lg.jp

